

## 2023年幕開け

# 私たちは大軍拡も大增税も許さない！ 9条守れ・憲法生かせの大運動で岸田政権に審判を

コロナ感染はまたしても越年となりました。健康への不安を抱えながらの新年に、気分の晴れぬ日々が続いています。

岸田自公政権の所業は、「安倍・菅より多少はマシなのかな」という一部の淡い期待を見事(?)に裏切る、“戦後最悪”ともいえる危険性をさらしています。

世界に誇る憲法を破壊し、「専守防衛」を投げ捨て、敵基地攻撃能力で戦端を開く。そのため軍事費を倍増し、財源は消費税増税など、物価高騰にあえぐ国民にかぶせる。しかも、これほどの所業を国会で審議することなしに閣議決定だけで進める。これ程の悪政がかつてあったでしょうか。

しかし、希望はあります。軍事費を増やす財源として増税することには反対69%・賛成23%、社会保障などを削り軍事費を増やすことには反対73%・賛成20%（いずれも「毎日」の世論調査）。岸田内閣の支持も

“政権末期”の様相を呈する水準になっています。国民多数の反撃こそ力です。

こんな時だからこそ、土浦平和の会、そして私たちと共に平和を求めて奮闘してきた仲間が、引き続き地域で、街頭で、職場で、学園で、平和を学び・広げ、世代を超えた共感を広げていくことが今ほど求められているときはありません。共に頑張りましょう。

(土浦平和の会理事会)



2022年は土浦憲法共同センターのみなさんと11回の街頭アピール行動

**怒**

### このギャップ 世界と子どもたちに 説明できます？

“43兆円と9条”。岸田さん、このギャップをどう説明するつもり？

### 日本国憲法 第9条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

### ◇防衛費総額約43兆円の主な内訳

● スタンド・オフ防衛 長射程のミサイル配備	約5兆円
● 統合防空ミサイル防衛 新型イージス艦など整備	約3兆円
● 無人アセット防衛 攻撃型無人機など配備	約1兆円
● 宇宙 次期防衛通信衛星など整備	約1兆円
● サイバー サイバー防護機材、人材育成	約1兆円
● 機動展開能力 海上、航空輸送能力を強化	約2兆円
● 指揮統制・情報関連 認知領域を含む情報戦対応能力の整備	約1兆円
● 弾薬・誘導弾 27年度までに必要数量確保	約2兆円
● 装備品等の維持整備費 部品不足を解消	約9兆円
● 施設の強靱(きょうじん)化 重要施設の地下化	約4兆円
● 研究開発 民生先端技術の取り込み	約1兆円

土浦憲法共同センター 次回行動1/20

### 1月街頭アピール行動

**9条守れ、憲法生かせ！  
ロシアはウクライナから撤退を！**

**1月20日(金) 午前10時～**  
ケーズデンキ真鍋店前

**ご案内**

**茨城県民共同アクション**  
**大軍拡・大增税は許さない！**  
**「専守防衛」を変えるなら、  
国民の信を問え！**

**1月19日(木)**

**12時～13時**  
水戸駅前 北口デッキ



## 各界に広がる 防衛費増額への警鐘 自民党内、自衛隊関係者からも次々

岸田内閣のあまりに強引・拙速な軍拡方針に、内輪の論客から批判が相次いでいる。2例を紹介。

### ■元自民党総裁・河野洋平氏TBS系「報道特集」 岸田内閣の防衛政策を批判

河野氏は防衛費倍増、反撃能力の保有などについて「尊い命を犠牲にして、われわれ今ここに繁栄を得ているのです。『決して忘れません、決してあの過ちは繰り返しません』。何十年もですね、言い続けてその結果がこの政策転換というのはわたしはあり得ないと思っている」とコメント。

転換の起点については「安倍政治っていうものに非常に大きな問題があったと思う」と指摘。安倍氏、菅義偉氏とバトンを受け継いだ岸田文雄首相の時には「勢いがついていて」と流れができてしまっていたとした。「少なくとも国会で議論をする。これをテーマに解散して総選挙で国民の意思を問うくらい重要な問題」と述べました。

さらに河野氏は「反撃能力っていうのは武力による威嚇ですよ」と明言。「威嚇を予算化しようと

している。政治や外交の努力を抜きにして、ただ壁だけを建てていく。壁の隙間から向こうへ鉄砲を狙うのは本当の安全だとは思わない」と述べました。

### ■元海上自衛隊自衛艦隊司令官 香田洋二氏 「朝日」北コソ&フォーラム(インテリ)記事 「5年間で43兆円、身の丈超えている 現場のにおいなし」

香田氏は「今回の計画からは、自衛隊の現場のにおいがしない」「43兆円という砂糖の山に群がるアリみたいになっているのでは」と指摘し、防衛費増額が必要と言ってきた立場から、「身の丈を超えていると思えてならない。反撃能力(敵基地攻撃能力)・・・子どもの思いつきかと疑うほどあれもこれもとなっている。全部本当にできるのか、やっていいことなのか、その検討結果が見えず、国民への説明も不十分」「今回2%のかけ声が先行し、政治家からもあれもこれもやるべきだという声も強かったのでは。防衛費増額は私もOBとしてありがたいと思いますが、それに悪乗りしている防衛省・自衛隊の姿が見える」とし、最後に「賛成も反対もある。それが正常な民主主義社会」と述べています。

### コスタリカの平和憲法はすごい

コスタリカは1949年の憲法で軍隊をなくしました。侵攻されれば国境警備隊と警察が対処し国際司法裁判所に提訴します。隣国から2度の侵攻を受けましたが裁判で平和的に解決したといえます。1987年にアリアス大統領は周囲の3つの国内戦を話し合いで解決させ、ノーベル平和賞を受賞しました。

その時彼は「平和憲法を持つ国は自分だけが平和で満足してはならない。世界を平和にするのが平和国家の役割だ」と語ったといえます。

### アリアス元大統領の言葉に納得

1995年平和会議のパネリストとして来日した時伊藤千尋氏の質問に答えた言葉は全く納得できるすばらしい内容です。自衛隊のカンボジア派兵について「軍服を着た人間が行けば必ず嫌われる。それよりも日本らしい国際貢献をすればいい」と答え

ました。

### 日本らしい貢献とは？

「内戦が長いカンボジアには病人やケガ人が多いはず。医者を派遣すればいい。白衣の医師のほうが軍人よりはるかに歓迎されます」

「次に必要なのは産業の復興です。カンボジアの産業は農業で日本と同じ水田耕作です。お百姓さんを派遣して日本の優れた農業技術を教えればいい。誰もが食べられるようになれば戦争などしませんよ」

「次に必要なのはカンボジアの将来です。将来を決めるのは教育です。教師を派遣してすぐれた日本の教育を伝えればいい」と即座に答えたといえます。

以上は「平和新聞」の12月15日号 伊藤千尋(ちひろ)氏のプララ・ビーダから抜粋しました

\* 平和新聞は国際的視野を広げるために必須の新聞です。みんなで読みましょう。

## 平和外交を实践する国コスタリカ

ジャーナリスト伊藤千尋さんの記事紹介

「平和新聞」の購読をおすすめします

井上仁志(土浦平和の会理事)



【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)：月額593円(送料含)

